特集

安全安心な社会基盤の発展に不可欠なEMC技術論文特集の発行にあたって

安全安心な社会基盤の発展に不可欠なEMC技術論文特集編集委員会

委員長　王　建青

本論文特集は，電子情報通信学会和文論文誌におけるEMC（環境電磁工学）をテーマとした論文特集として，3年ぶりの企画である．この3年間で，自動車の電動化拡大，パワーエレクトロニクス機器の普及，無線給電技術の進展に加え，昨年が「ウェアラブル元年」と呼ばれるように各種ヘルスケア・医療用ウェアラブルデバイスが出現し，EMCの課題は大きく変貌し，その位置付けも過去に増してますます重要になっている．EMC技術は，電気電子機器の性能を確保するものだけでなく，これらの機器の利用により私たちがその恩恵を享受できる社会基盤の確立にも大いに貢献している．この社会基盤の更なる発展に伴い生ずる新たな課題の解決には，不断の努力が不可欠である．

このような状況を踏まえ，EMCに関する最新の計測・評価・設計技術の新たな研究成果を社会で共有するとともに，更なるEMC技術の発展を目指して，EMC回路基板設計，EMC計測，パワーエレクトロニクスのEMC，自動車のEMC，通信システムのEMC，生体EMC，ヘルスケア・医療機器のEMC，EMC対策技術，電磁波セキュリティ技術などを対象として幅広く論文を募集した．その結果，16編にも及ぶ論文・レターの投稿が得られ，それらに対して厳正な査読を行った結果，計11編の論文・レターが本特集に採択された．

本論文特集の11編の論文・レターは，著者の方々が得られた前述分野の貴重な研究成果を論じたものであり，安全安心な社会基盤の発展に不可欠なEMC技術の最先端を表しているだけでなく，今後のEMC技術の一層の発展にも大きく寄与できるものと信じる．

この特集の企画から発行にあたって，最新の成果を反映した原稿を御寄稿頂いた方々，御多忙の中で論文査読に御協力くださった査読委員の方々，企画と編集に御尽力頂いた幹事・編集委員の方々，並びに予定通りの発行のために大変御支援頂いた事務局の方々に深くお礼を申し上げる．

王　建青（正員：フェロー）　1984年7月北京理工大学卒，1991年3月東北大学大学院博士後期課程了．東北大学工学部助手，（株）ソフィアシステムズを経て，1997年より名古屋工業大学工学部助手．その後，講師，助教授を経て，現在同大学大学院教授．生体医用通信，環境電磁工学に関する研究に従事．工学博士．

安全安心な社会基盤の発展に不可欠なEMC技術論文特集編集委員会

委員長　王　建青
幹事　豊田啓孝
委員　青柳貴洋・井山隆弘・川又憲・肖鳳超
高谷和宏・半杭英二・舟木剛・森岡健浩